

活動報告

活用状況を考慮した「拠点病院診療案内」のあり方についての検討

——拠点病院診療案内の活用に関するアンケート調査結果より——

Investigation of Usefulness of AIDS Core Hospital List

——Findings of Questionnaire Survey about the Utilization of AIDS Core Hospital List——

須貝 恵^{1,8)}, 鈴木 智子^{2,8)}, センテノ田村恵子^{3,8)}, 辻 典子^{4,8)},
井内亜紀子^{5,8)}, 濱本 京子^{6,8)}, 吉用 緑^{7,8)}, 山本 政弘⁷⁾

Megumi SUGAI^{1,8)}, Tomoko SUZUKI^{2,8)}, Keiko CENTENOTAMURA^{3,8)}, Noriko TSUJI^{4,8)},
Akiko IUCHI^{5,8)}, Kyoko HAMAMOTO^{6,8)}, Midori YOSHIMUCHI^{7,8)}
and Masahiro YAMAMOTO⁷⁾

¹⁾ 新潟大学医歯学総合病院感染管理部, ²⁾ 国立病院機構仙台医療センター, ³⁾ 北海道大学病院,
⁴⁾ 石川県立中央病院, ⁵⁾ 国立病院機構大阪医療センター, ⁶⁾ 広島大学病院,

⁷⁾ 国立病院機構九州医療センター, ⁸⁾ 公益財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント

¹⁾ Niigata University Medical and Dental Hospital, ²⁾ National Hospital Organization Sendai Medical Center,
³⁾ Hokkaido University Hospital, ⁴⁾ Ishikawa Prefectural Central Hospital,

⁵⁾ National Hospital Organization Osaka National Hospital, ⁶⁾ Hiroshima University Hospital,

⁷⁾ National Hospital Organization Kyushu Medical Center, ⁸⁾ Japan Foundation for AIDS Prevention

はじめに

厚生労働省エイズ対策研究事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班では、冊子「拠点病院診療案内」(以下、「診療案内」)を全国のエイズ治療拠点病院(以下、拠点病院)の協力により、2001年度より作成し、関係機関に配布している。「診療案内」は全国拠点病院のHIV/エイズ診療に関する情報を中心に病院情報を掲載し、拠点病院や保健所等の施設間連携の促進を目的として、ブロック拠点病院情報担当職員を中心に毎年編纂を行い、拠点病院の最新情報を提供してきた。今回、今後の「診療案内」、ならびにそのWebサイト化に向けて情報内容を充実・向上させることを目的として「拠点病院診療案内の活用に関するアンケート」を行った。

対象および方法

2010年5月から8月に「診療案内2009-2010」を配布した1,127施設(全国拠点病院378施設、行政機関747施設、その他2施設)のHIV診療や関連業務に関わるスタッフを対象とした。「拠点病院診療案内の活用に関するアンケート」調査票を送付し、FAXで回答を得た。

結 果

622施設から934件の回答を得た(回答率55%)。回答者は行政関係者59%、病院関係者41%と行政関係者の回答率が高かった。回答者職種比率は保健師が36%、医師22%、看護師11%で、薬剤師6%、技師6%、ソーシャルワーカー5%、事務4%、心理職3%であった。

「診療案内」の利用有無は、「ある」が全体で50%であり、機関別では行政関係が52%、病院関係が50%であった。

利用用途は、最も多かったのが行政関係では「患者・HIV検査受検者への情報提供」、病院関係では「患者転居にともなう拠点病院検索のため」であった(図1)。

利用目的は達せられたかの問いには、「十分」が77%、「必要な情報の掲載が不十分であったが目的は達した」が21%で、98%が目的は達したと回答した。「必要な情報の掲載が不十分で目的は果たせなかった」が2%あった。

掲載が不十分であったとされた必要な情報は、「新しい情報」、「担当課、担当医師(記載が無い)」、「具体的な受診手続き」、「実際の診療実績」、「出産可能かどうか」、「地域の情報」、「土曜日、夜間の受診について」、「通訳の有無」などであった。

「診療案内」に施設情報を掲載するにあたり、担当者の明確化など、院内で確認したことがあったかの問いでは、「全ての掲載事項は掲載依頼前に決まっていた」219件(72%)、「一部の掲載事項は掲載依頼前に決まっていたが、

著者連絡先：須貝 恵 (〒951-8520 新潟市中央区旭町通1-754
新潟大学医歯学総合病院感染管理部)

2013年2月12日受付；2013年5月16日受理

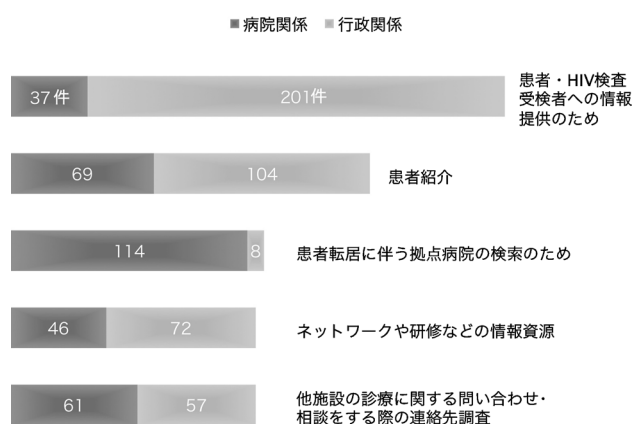


図1 診療案内をどのようなことに利用したか

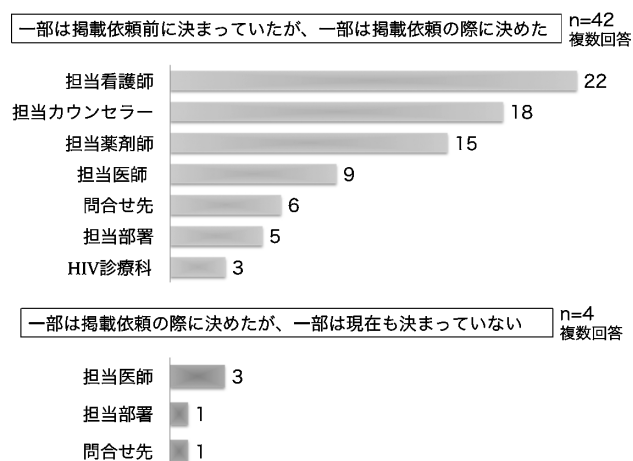


図2 掲載依頼の際に決定した項目

一部は掲載依頼の際に担当者を決めた」42件（14%）、「一部の掲載事項は掲載依頼前に決まっていたが、一部は現在も決まっていない」24件（8%）、「全ての掲載事項は掲載依頼の際に決めた」16件（5%）、「一部の掲載事項は掲載依頼の際に決めたが、一部は現在も決まっていない」4件（1%）であった。

掲載依頼の際に、「全て」および「一部」の担当者を決めたという回答は20%であった。掲載の際に決定した事項は、「一部は掲載依頼前に決まっていたが、一部は掲載依頼の際に決めた」群では、看護師、薬剤師、カウンセラーを決めたという回答が多かった。「一部は掲載依頼の際に決めたが、一部は現在も決まっていない」群は、担当医師、担当部署、問合せ先という回答であった（図2）。

調査結果から活かしたこと

アンケート結果をもとに掲載内容の改訂を行った。まず2011-2012年版では、HIV医療に欠かせない社会資源利用に係わる「指定自立支援医療機関の有無」、「身体障害者福祉法15条第一項の指定医師の存在」、「MSWの担当者欄」を追加し、地図を詳細なものに変更した。保健所等から回答が多かった「初診時予約の要・不要」についても追加した。さらに2012-2013年版では、患者のHIV診療担当科以外のさまざまな診療科への受診の必要性から、「診療科別の診療実績」を追加した。

2011年には「拠点病院診療案内WEB」を立ち上げた（<http://hiv-hospital.jp/>）。

今後の課題

今回のアンケート結果から不十分とされた「新しい情報」、「担当課、担当医師（記載が無い）」、「具体的な受診手続き」、「実際の診療実績」、「出産可能かどうか」、「地域の情報」、「土曜日、夜間の受診について」、「通訳の有無」といった内容の充実が必要である。

最新の情報の更新については冊子が年1回の発行であることを考えると限界があるため、情報の修正が容易なWebサイトで随時情報を更新することで最新情報の提供というニーズを満たすことが可能になると考える。

まとめ

「診療案内」は、患者・HIV検査受検者への病院情報の提供や紹介先・連携先の拠点病院を検索する情報源として活用されていたが、まだまだ不十分な点が多いことが明らかとなった。一方で「掲載依頼の際に担当者を決めた」とする回答が20%あり、掲載依頼により担当者の明確化が促され、「診療案内」がHIV診療体制整備の一助となっていると考えられた。今後も各職種の担当者掲載を続けることで、担当者の明確化が継続的に行われ、自施設の診療体制の振り返りや整備、拠点病院としての職員の意識向上へとつながっていくことが望まれる。

これからも、冊子・Webサイトそれぞれの特徴を生かし、効率的な情報収集および提供体制、その運用について検討していきたい。

謝辞

本研究は、厚生労働科学研究費「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」の一環として行った。「拠点病院診療案内」作成および、アンケートにご協力いただいた全国拠点病院、その他関係各所の皆さまに深謝致します。